

神戸市消防局 職員採用案内・業務紹介

◇採用試験案内入手方法

インターネットから入手してください。
神戸市職員採用ホームページで試験案内をご確認いただけます。
<https://saiyou.city.kobe.lg.jp/>

◇採用試験の申込方法

インターネットから「兵庫県電子申請共同運営システム」にアクセスし申込をしてください。
※スマートフォンやタブレット、携帯電話等での申込はできません。
※神戸市職員採用ホームページからも「兵庫県電子申請共同運営システム」にアクセスできます。
※詳しくは採用試験案内をご確認ください。

◇お問い合わせ

採用試験に関するお問い合わせは

神戸市人事委員会事務局任用課（神戸市役所1号館22階）
〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 Tel.078-322-5823

神戸市消防局の勤務内容についてのお問い合わせは

神戸市消防局総務部職員課（神戸市役所4号館3階）
〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 Tel.078-322-5739



神戸市職員採用ホームページ
<https://saiyou.city.kobe.lg.jp/>



神戸市消防局ホームページ
<https://www.city.kobe.lg.jp/a81137/shise/shokuinsaiyou/recruit/saiyou.html>



神戸市消防局X



神戸市消防局
Instagram



神戸市消防局
Facebook

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



2025年1月、阪神・淡路大震災から30年を迎えました。

消防局の使命は30年前と変わることなく、神戸の安全・安心を守ることです。

このBE KOBEは、震災20年の節目に生まれた

「人のために力をつくす」という市民の熱い想いを集約した

「市民が神戸市民であることを誇りに想う気持ち」を表したメッセージです。

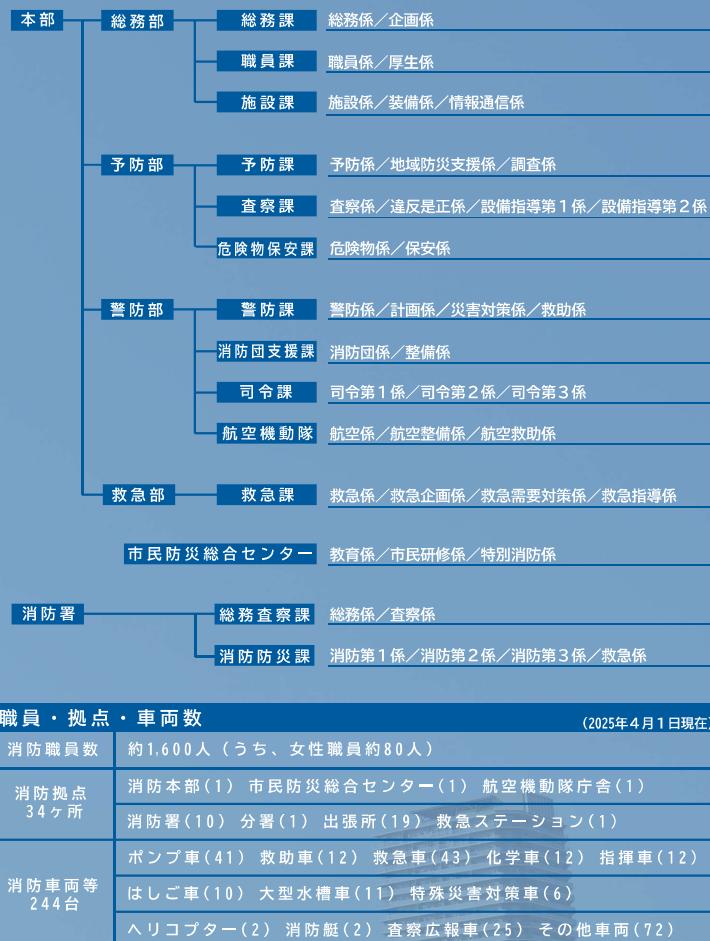
この想いは、震災から30年経過しても変わるものではありません。

震災での教訓を胸に、神戸の安全・安心を守ることはもちろん

市民の熱い想い・誇りを守っていくのが私たち神戸市消防局です。

神戸市消防局の組織図

(2025年4月1日現在)



(2025年4月1日現在)

職員・拠点・車両数

(2025年4月1日現在)

消防職員数	約1,600人（うち、女性職員約80人）
消防拠点 34ヶ所	消防本部(1) 市民防災総合センター(1) 航空機動隊庁舎(1) 消防署(10) 分署(1) 出張所(19) 救急ステーション(1)
消防車両等 244台	ポンプ車(41) 救助車(12) 救急車(43) 化学車(12) 指揮車(12) はしご車(10) 大型水槽車(11) 特殊災害対策車(6) ヘリコプター(2) 消防艇(2) 査察広報車(25) その他車両(72)

*消防車両総数にヘリコプター、消防艇は含まない。



神戸市消防局の部隊・業務・キャリアプラン



航空機動隊

兵庫県と神戸市で3機のヘリを共同で運航。山岳救助や水難救助などの救助活動のほか、林野火災における空中消火活動、火災現場の上空から赤外線カメラで撮影した熱分布映像の現場指揮所への共有、災害現場の上空からの情報収集など活動は多岐にわたります。



本部特殊災害隊

特殊災害隊はNBC災害（放射性物質・生物剤・化学生物質による災害）やガス災害などの特殊な物質による災害に対応しており、その中でもリーダーとしての役割を担っているのが本部特殊災害隊（ハズマット神戸）です。状況に応じて防護服を使い分け、特殊災害から市民の安全を守ります。



指揮隊

災害現場で出動部隊全体の指揮を執ります。災害の状況や要救助者の情報などから活動方針を決定し、被害を最小限にするとともに、二次災害の防止を図ります。



消防隊

火災現場で消火活動を行うほか、台風・大雨などの風況や要救助者の情報などから活動方針を決定し、被害を最小限にするとともに、二次災害の防止を図ります。



救急隊

緊急を要する人がや急病人に適切な処置を行い、医療機関へ搬送します。神戸市の救急車には2名の救急救命士が乗務し、医師の指示を受け高度な救命処置を行います。



救助隊

人命救助についての高度な知識と専門的な技術を有した隊員で編成され、救出用器具や破壊用器具などの資機材を駆使し、事故や自然災害などあらゆる災害現場で人命救助を行います。



消防科学研究所

X線透視装置やデジタル顕微鏡など様々な試験装置及び分析機器を用いて火災原因を科学的に究明し、未来の火災を減らす役割を担っています。



消防艇隊

「たかとり」「くすのき」の2艇を運用し、船舶火災や水難事故、船舶内での救急事案などに出动します。また、大規模火災時には消防車8台分の放水能力がある消防ポンプで海の水を吸い上げ、放水砲で遠距離放水することや、陸上の消防隊へ水を送ることも行います。



特別高度救助隊

特別高度救助隊（スーパーイーグルこうべ）は、神戸の救助隊のリーダーの役割を担っており、救助隊の中でも特に高度な資機材等を使用し救助活動を行います。地震や土砂災害など、多発する大規模な自然災害には消防用重機（ショベルカー）等を活用して対応しています。



地域防災

阪神・淡路大震災の教訓から、地域で暮らしている人たちが互いに助け合えるよう結成された「防災福祉コミュニティ」に対し、訓練指導や応急手当講習などを実施。建物の安全は地域で守るための支援を行っています。



大規模災害対応救急隊

多数の人が発生した災害において、指揮と医療チームとの連携・調整を図ることを目的に、2006年に全国で初めて大規模災害対応救急隊（BLUE-CAT）が発隊しました。高度な知識を有した救急救命士のみで編成され、救助部隊や医療チームの司令塔として活動します。



防火査察

建物に設置されている消防用設備（消火器や誘導灯など）の維持管理状況などを実際に建物に立ち入って検査します。消防法令違反を発見した際は是正するよう働きかけます。建物の安全を確保することで、火災による被害を最小限にします。

キャリアプラン例

紹介したように、消防職員と言っても様々な部隊や業務があり、一人ひとり多様なキャリアデザインの形成が可能です。そして、いつ、どのタイミングからでも新しい業務にチャレンジできます。ここでは、採用後のキャリアプラン例を紹介します。

